



いのちとくらしをまもる
防災減災

地震解説資料
令和8年4月27日17時15分
仙台管区気象台

令和8年4月20日16時53分頃の三陸沖の地震について
～「北海道・三陸沖後発地震注意情報」に伴う特別な注意の呼びかけ期間終了～

地震・津波に対する日頃からの備えをお願いします。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区気象台 気象防災部 地震火山課
電話 022-297-8171

防災上の留意事項と今後の見通し

（三陸沖の地震に関する防災上の留意事項）

- 4月20日に三陸沖で発生した地震（M7.7）後の地震活動は、当初は活発でしたが、時間の経過とともに低下し、当該地域で4月20日の地震と同程度の地震が発生する可能性は、地震発生当初に比べ低くなりました。
- この3日間（4月24日から4月26日）で震度1以上を観測した地震は5回ですが、身体に感じない地震も含めると平常時より地震が多い状況が継続しており、現状程度の地震活動は当分続くと考えられます。
- なお、今回の地震活動の周辺では、「平成6年（1994年）三陸はるか沖地震」（M7.6）が12月28日に発生した後、翌年1月7日（本震から10日後）にM7.2の最大余震が発生し、被害が生じました。
- 4月20日の地震で揺れの強かった地域では、落石や崖崩れなどの危険性が高まっていますので、復旧作業などを行う場合には、地震活動や降雨の状況に十分注意してください。
- 日本国内では、いつどこで強い揺れを伴う地震が発生してもおかしくありませんので、日頃からの地震への備えを心がけてください。

防災上の留意事項と今後の見通し

（北海道・三陸沖後発地震注意情報について）

- 4月20日16時52分の三陸沖を震源とする地震の発生後、千島海溝・日本海溝沿いの巨大地震の想定震源域では、新たに後発地震への注意を促す情報を発表する基準を満たす地震は発生していません。
- 4月20日16時52分の三陸沖を震源とする地震の発生から1週間経過したことから、本日（27日）17時をもって、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」発表に伴う政府としての特別な注意を呼び掛ける期間は終了しました。
- なお、過去の世界的な事例をみると、最初の地震から1週間以上経過した後には大規模地震が発生した事例もあります。

防災上の留意事項と今後の見通し

（北海道・三陸沖後発地震注意情報について）

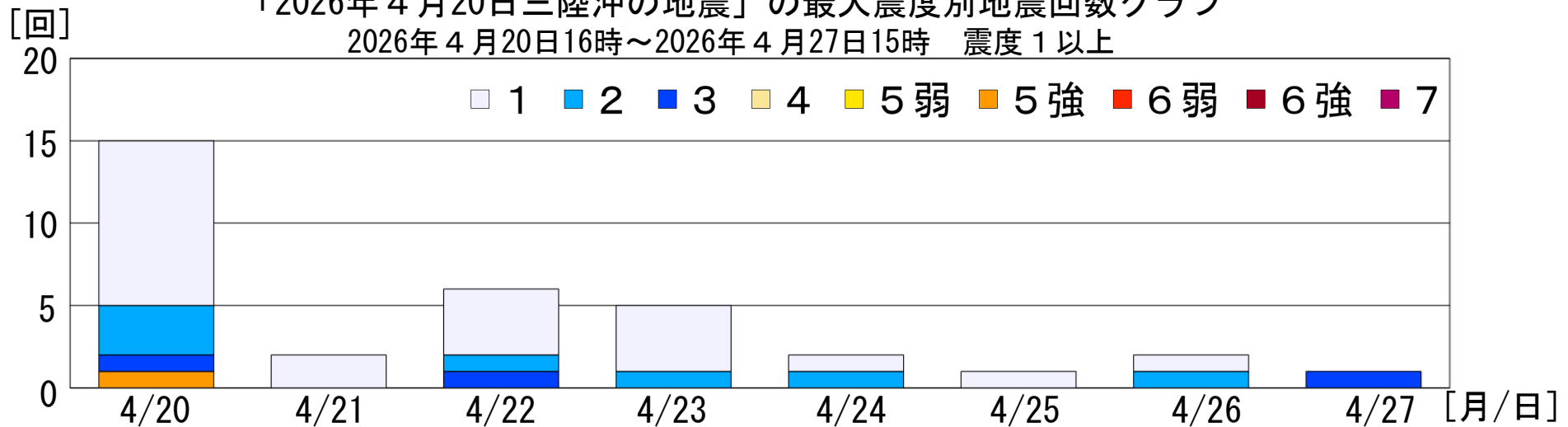
- 千島海溝・日本海溝沿いにおける地震・津波の発生履歴を見ると、12～13世紀、17世紀と、約3～4百年の間隔で最大規模の津波の発生が確認されており、17世紀の津波からの経過時間を考えると、最大規模の地震・津波の発生は切迫している状況にあると考えられています。
- また、地震調査研究推進本部地震調査委員会の長期評価によると、北海道東部に巨大な津波をもたらすような千島海溝沿いの超巨大地震については、今後30年以内の発生確率はⅢランク（高い）と評価されているほか、千島海溝・日本海溝沿いでは、他にも被害をもたらすような多数の海溝型地震について、今後30年以内の発生確率がⅢランク（高い）と評価されています。
- 千島海溝・日本海溝沿いでは、いつ大規模地震が発生してもおかしくないことに留意し、「日頃からの地震への備え」については、引き続き実施してください。

震度1以上の地震の発生状況

震度1以上を観測した地震の発生回数（4月27日15時現在）

日別	最大震度別回数									震度1以上を観測した回数	
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	累計
4月20日	10	3	1	0	0	1	0	0	0	15	15
4月21日	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	17
4月22日	4	1	1	0	0	0	0	0	0	6	23
4月23日	4	1	0	0	0	0	0	0	0	5	28
4月24日	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	30
4月25日	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	31
4月26日	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	33
4月27日	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	34
総計	23	7	3	0	0	1	0	0	0		34

「2026年4月20日三陸沖の地震」の最大震度別地震回数グラフ
2026年4月20日16時～2026年4月27日15時 震度1以上



※地震回数は後日の精査により変更される場合があります。（仙台管区気象台作成）

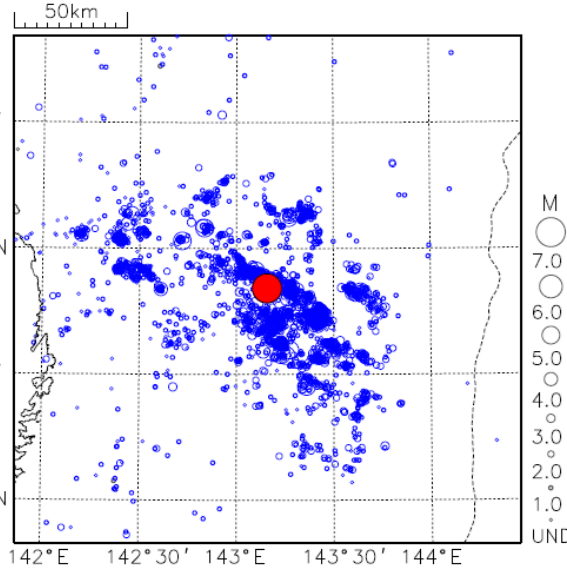
今回の地震活動

震央分布図（詳細図）

震央分布図（広域図）の四角形領域内の震央分布図

深さ0 -- 100km、M 全て

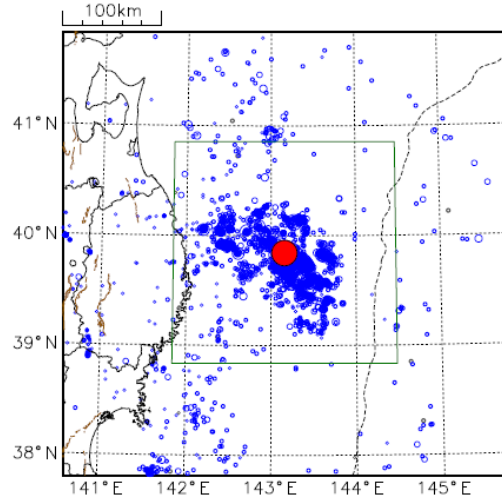
2026 04 20 14:00 -- 2026 04 27 13:00



震央分布図（広域図）

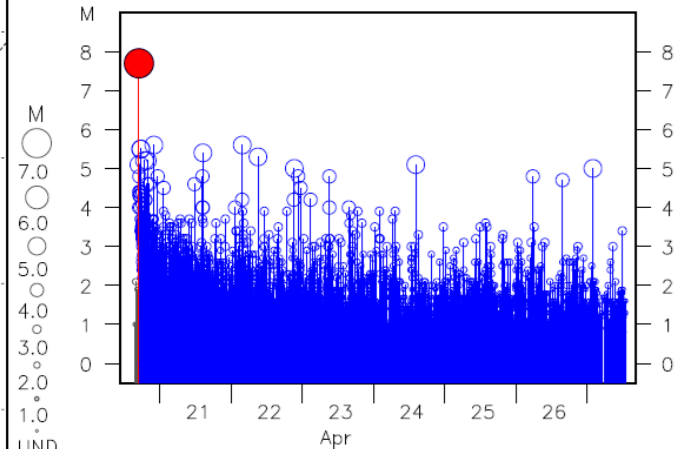
深さ0 -- 100km、M 全て

2026 04 20 14:00 -- 2026 04 27 13:00



震央分布図（詳細図）の地震活動経過図

2026 04 20 14:00 -- 2026 04 27 13:00



● 4月20日16時52分 M7.7の地震

（震源の色について）赤色：今回の地震（M7.7）、青色：今回の地震より後に発生した地震、灰色：今回の地震より前に発生した地震

- 震央分布図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。
- 震央分布図中の黒色の点線は、海溝軸を示す。

<資料の利用上の留意点>

- 表示している震源は、速報値を含みます。
- 速報値の震源には、発破等の地震以外のものや、誤差の大きなものが表示されることがあります。
- 個々の震源の位置や規模ではなく、震源の分布具合や活動の盛衰に着目して地震活動の把握にご利用ください。

（参考）北海道・三陸沖後発地震注意情報について

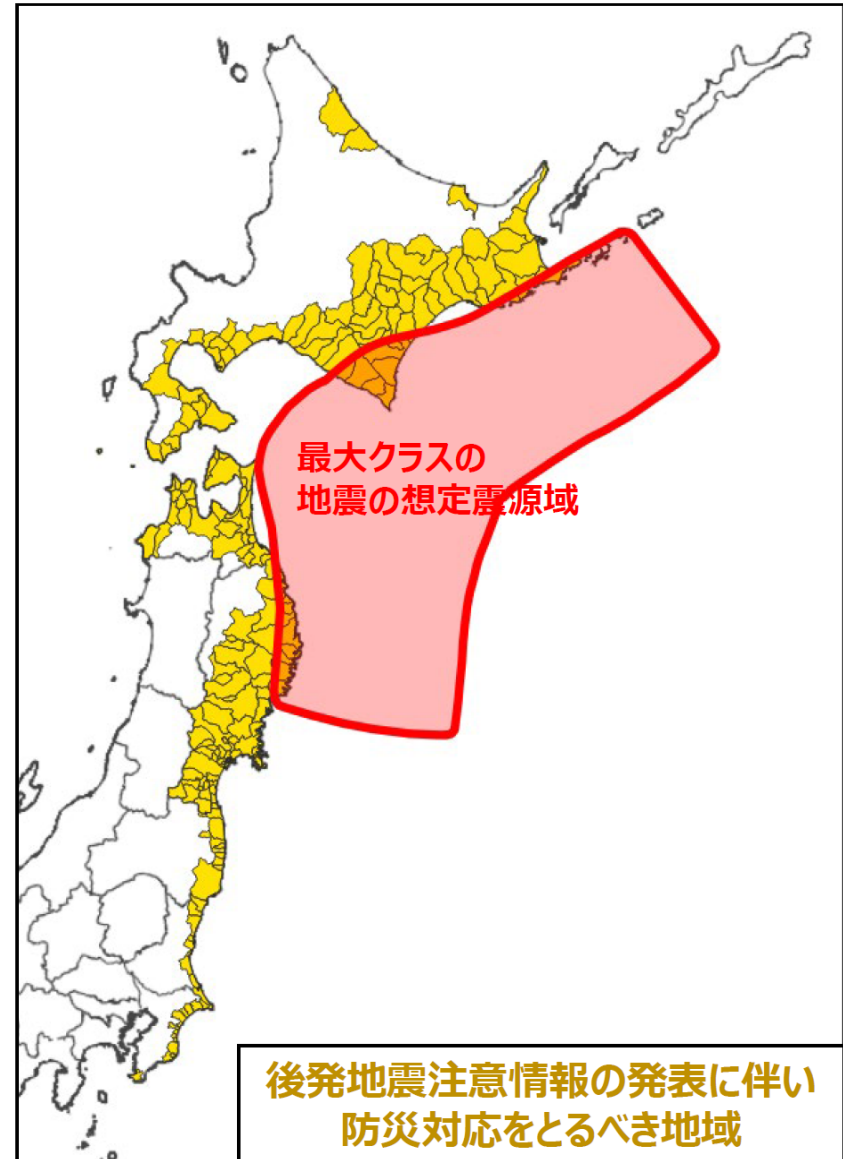
＜北海道・三陸沖後発地震注意情報とは＞

- 日本海溝・千島海溝沿いの想定震源域で一定規模以上の地震が発生した場合等に、続けて大規模地震が発生する可能性が平常時と比べて相対的に高まった場合に発表される情報
- 運用開始：令和4年12月
- これまでの発表履歴：2回

後発地震 注意情報 発表日	後発地震注意情報 発表のきっかけとなった現象		
	発生日	震央地名 (地震名称)	モーメント マグニチュード
令和7年12月9日 02時00分	令和7年12月8日 23時15分	青森県 東方沖	7.4
令和8年4月20日 19時30分	令和8年4月20日 16時52分	三陸沖	7.4

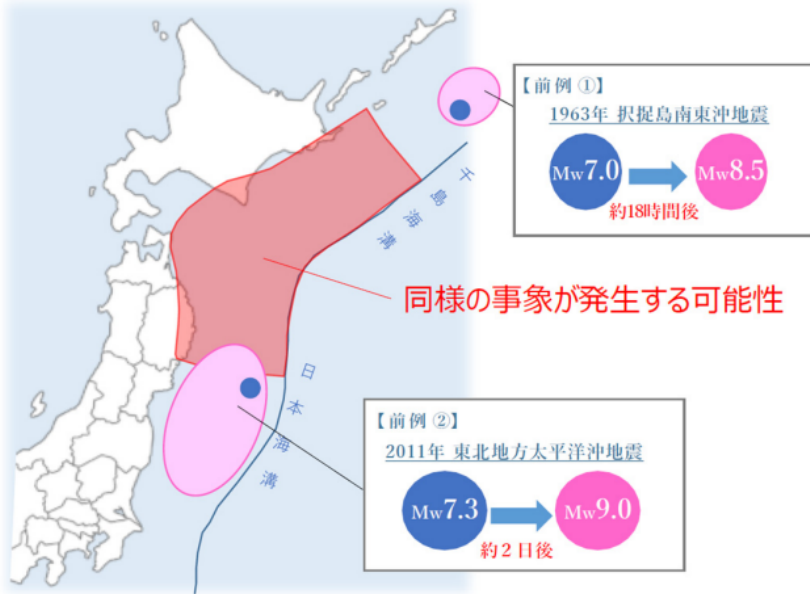
発表頻度は統計的に概ね2年に1回程度と考えられている

今回、地震の備えを再確認されたことは、次の地震への備えにつながります



（参考）地震が続けて発生した事例

千島海溝・日本海溝沿いの事例

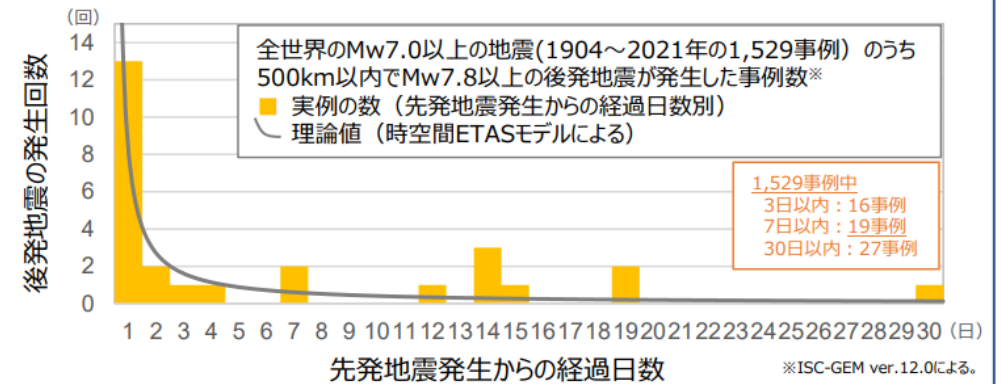


- 2011年に三陸沖においてMw7.3の地震が発生した2日後にMw9.0の巨大地震（東北地方太平洋沖地震）が発生。
- 1963年に択捉島南東沖においてMw7.0の地震が発生した18時間後にMw8.5の地震が発生。

過去の世界の事例

Mw7.0以上の地震に続いて、Mw7.8(M8クラス)以上の地震が発生した事例の発生パターン

1週間(7日)以内：19事例／1,529事例 ⇒約1%（平常時の十倍程度の頻度）

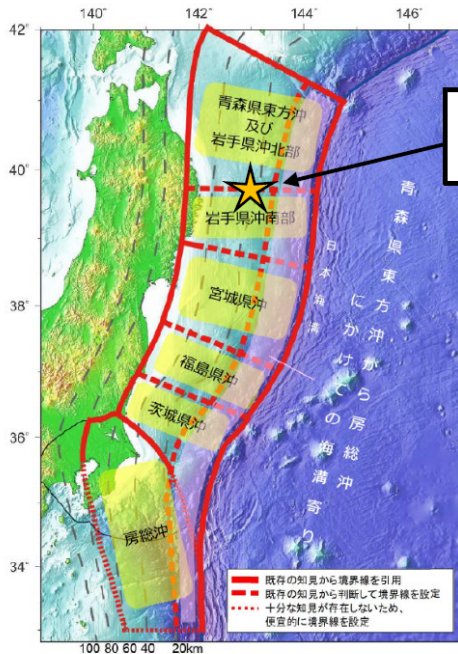


- Mw7.0以上の地震発生後、7日以内にMw 8クラス以上（Mw7.8以上）の大規模地震が発生するのは、百回に1回程度。

○「北海道・三陸沖後発地震注意情報」では、後発地震が実際に発生する確率は低いものの、巨大地震が発生した際の甚大な被害を少しでも軽減するために、新たな大規模地震の発生可能性が平常時と比べて相対的に高まっていることをお知らせします。

○後発地震が発生する可能性は、先に発生した地震が起こった直後ほど高く、時間を経るにつれて低くなっていきますが、ゼロになるわけではありません。

●想定される地震の震源域（注1）



今回の地震の震央位置

周辺で想定されている海溝型地震
 ○今回の地震の震源周辺では、日本海溝沿いで発生する大規模地震が想定されています。

海域で発生した規模の大きな地震後に見られた地震活動の例
 ○過去には、2008年の茨城県沖の地震のように、大きな地震の発生後、より大きな地震が発生し、当初の活動域が広がった例もあります。しかし、2004年の釧路沖の地震のように、より大きな地震は発生せず、地震活動域が広がらなかった例もあります。

●海溝型地震の長期評価の概要（日本海溝沿い）（注1）

評価対象地震	発生領域	想定される規模	ランク(注2)	平均発生間隔
超巨大地震(東北地方太平洋沖型)	岩手県沖南部～茨城県沖	M9.0程度	Iランク	550～600年程度
プレート間巨大地震	青森県東方沖及び岩手県沖北部	M7.9程度	IIIランク	97.0年
	宮城県沖	M7.9程度	IIランク	109.0年
ひとまわり小さいプレート間地震	青森県東方沖及び岩手県沖北部	M7.0～7.5程度	IIIランク	8.8年
	岩手県沖南部	M7.0～7.5程度	IIIランク	88.2年
	宮城県沖	M7.0～7.5程度	IIIランク	12.6～14.7年
	宮城県沖の陸寄りの地震(宮城県沖地震)	M7.4前後	IIIランク	38.0年
	福島県沖	M7.0～7.5程度	IIIランク	44.1年
	茨城県沖	M7.0～7.5程度	IIIランク	17.6年
海溝寄りのプレート間地震(津波地震等)	青森県東方沖から房総沖にかけての海溝寄り	Mt8.6～9.0(注3)	IIIランク	102.8年
沈み込んだプレート内の地震	青森県東方沖及び岩手県沖北部～茨城県沖	M7.0～7.5程度	IIIランク	22.0～29.4年
海溝軸外側の地震	日本海溝の海溝軸外側	M8.2前後	IIランク	411.2年

(注1) 2019年2月26日公表の「日本海溝沿いの地震活動の長期評価」より引用。

(注2) 海溝型地震における今後30年以内の地震発生確率が26%以上を「IIIランク」、3%～26%未満を「IIランク」、3%未満を「Iランク」、不明(すぐに地震が起きることを否定できない)を「Xランク」と表記しています。ランクに「*」を付記している場合は、地震後経過率が0.7以上を表しています。

(注3) Mtは津波の高さから求める地震のマグニチュードです。

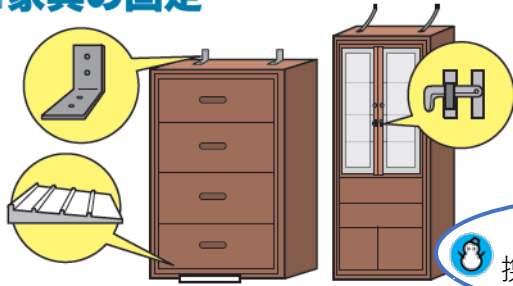
※本資料は以下を基に作成しました。

「活断層及び海溝型地震の長期評価結果一覧」(地震調査研究推進本部) <https://www.jishin.go.jp/main/choukihyoka/ichiran.pdf>

「日本海溝沿いの地震活動の長期評価」(地震調査研究推進本部) https://www.jishin.go.jp/main/chousa/kaikou.pdf/japan_trench.pdf

日頃から地震の発生に備えよう

□家具の固定



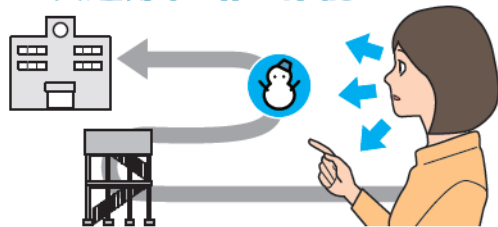
□非常用持ち出し袋の準備



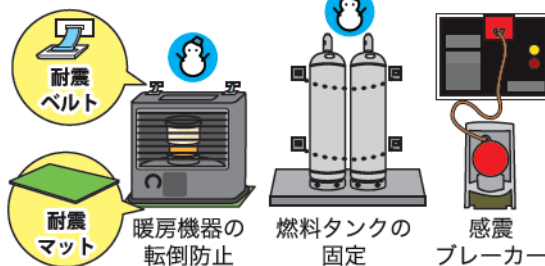
□水や食料の備蓄



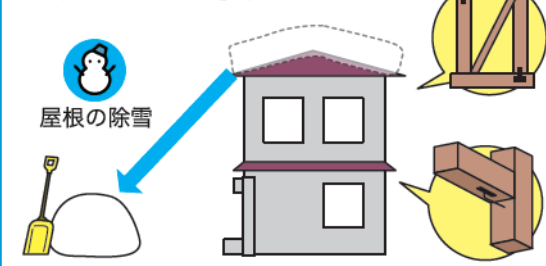
□避難場所や避難経路・二次避難経路の確認




□出火防止対策



□建物の耐震化



：特に積雪寒冷地での備え

突発的に発生し得る地震に備え、自らの命、大切な人の命を守るために、日頃から準備しておきましょう

その他、自宅での安全スペースの確保をしましょう。

- ・ ドア付近に物を置かない
- ・ 寝室で物が頭に落ちてこないようにする など

旅行先・帰省先で備えたいこと

外出先で地震が起きた場合にどのような対応を取ればよいか
予め考えておくことも「心の備え」のひとつ

(例)

- **旅先のハザードマップの活用**
災害リスクや避難経路、避難場所の確認



津波注意
津波が来襲する危険のある地域を示します



津波避難ビル・津波避難場所
津波から一時的に避難する場所を示します

- **家族や大事な人との安否確認について
複数の連絡手段を共有**
SNS、災害用伝言ダイヤル（171）など
- **防災アプリなどの導入**
災害情報を受け取れるよう設定

発表した情報などについて

- 津波警報等の発表状況
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=tsunami>
- 津波の観測状況
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#elem=info&contents=tsunami>
- 潮位観測情報
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=tidelevel>
- 地震情報
https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=earthquake_map
- 推計震度分布図
https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=estimated_intensity_map
- 長周期地震動に関する観測情報
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=ltpgm>
- 緊急地震速報の発表状況
https://www.data.jma.go.jp/eew/data/nc/pub_hist/index.html
- 発震機構解
<https://www.data.jma.go.jp/eew/data/mech/top.html>
- 震央分布
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=hypo>
- 地震から身を守るために
https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/jishin_bosai/index.html
- 津波から身を守るために
https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/tsunami_bosai/index.html
- 気象庁防災情報 X（旧Twitter）
https://x.com/JMA_bousai

